

漆芸「変り塗」技術とコンピュータデータベース化の研究

小林 伸好

KOBAYASHI Nobuyoshi

1. はじめに

漆芸は数多くの技法が有り、代表的な技法としては蒔絵や螺鈿が良く知られている。江戸中期より鞘塗りとして発達した「変り塗」も蒔絵、螺鈿技法と共に様々な種類が有り、日本全国で制作されていたが技法の多さと複雑な手順から変り塗技法として正確に受け継がれているものは少ない。

多数ある「変り塗」の中でも、「磯草塗」と呼ばれる技法は、国内では本県、庄内地方にしか無い貴重な技術であり、技術を伝えている職人は2名しかいない。また磯草塗りには独特の技法、行程が多い。特に各行程で使用される素材としての漆は職人独特の調整が必要で複雑な技術が必要とされる。

本研究では本県の庄内地方に伝わっている磯草塗の技法、技術、行程を調査、研究し、行程見本等を制作した。また、データとして各行程の写真をコンピュータに取り込み、技術資料としての活用をはかった。

2. 磯草塗

磯草塗は新潟県弥彦の塗師が手法を考案したと伝えられ、輪島の流れをくむ漆工芸と言われている。江戸時代後期頃、新潟から山形県温海地方、庄内地方へと伝えられたと言われているが、其の歴史は定かではない。温海地方では特に温海塗と呼び珍重されている。

大正、昭和にかけ、酒田市を中心にした庄内地方にも数十人の磯草塗職人がおり、漆塗りの組合があったというが漆から洋塗料産業への転換、伝統工芸品の売れゆき不振、後継者難等で、現在では斎藤八惣八親子の2名しか技術を伝えている者はいない。

磯草塗は波間に漂う海藻のイメージを塗り変えて表現した研出し技法である。下地は木地に布はりをした後、輪島地の粉による本堅地仕上げ。下地完成後に磯草塗独特の模様つけ（塗り変えて言われる仕掛け。磯草塗ではヒボ置きと呼ばれる）が独特な道具で施される。

ヒボ置きで使われる漆は生漆又は黒呂色漆に唐の土と油煙を混ぜ、季節や温湿度の変化によって混合比を変えて作られる。その後、赤漆（弁柄）黄色漆（石黄）黒漆が塗られ、模様を研出し、磨き仕上げられる。仕上がりは黒地に赤、黄色のうねりのある波模様が器物全体に地紋風に施された、力ある塗りになっている。模様は波間に漂う海草をイメージしていると言われている。

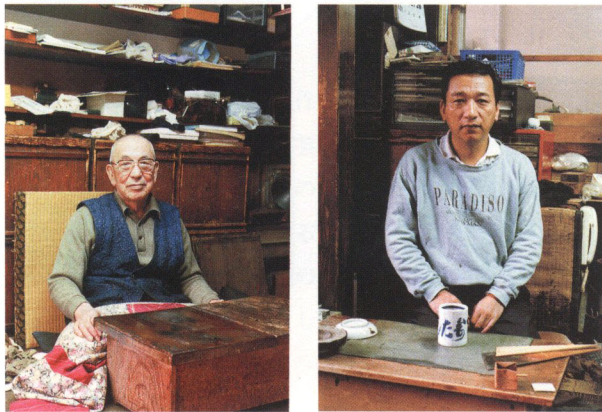


写真1・2 斎藤八惣八氏親子

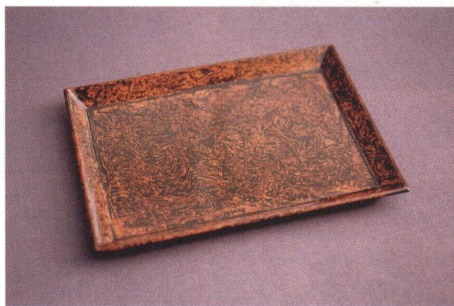


写真3 磯草塗四方盆

3. 磯草塗の工程と道具

磯草塗工程は江戸時代に発達した塗り変えてであり、輪島の流れをくむ一技法と言われている。漆工芸として作

品が完成されるまでには様々な工程が有るが、大別すると木地製作、下地工程、加飾工程に分けられる。下地工程は輪島塗の流れをくむ事から輪島地の子を使った本堅地仕上げが行われる。加飾工程としての磯草塗は塗り変えて技術であるため仕掛け漆で模様を付けて色漆を塗り重ね、研ぎ出すという工程が行われる。一般的に、仕掛け工程に使われる漆には卵白や豆腐などを練り込み、粘度の高い仕掛け漆を使うが磯草塗では唐の土（鉛白）と油煙を混ぜ、ヒボ置きと呼ばれる工程で行われる。

下記に磯草塗工程を記す。

○下地工程

1. 木地（サンドペーパー等で木地調整を行う）
2. 木地固め（生漆を木地に吸い込ませる）
3. 布貼り（木地補強、やせ防止に麻布を貼る）
4. 布目摺り（布目に下地を摺り込みやせを防ぐ）
5. 空研ぎ（平滑に研ぐ）
6. 地付け（荒い地漆により下地をつける）
7. 切子付け（空研ぎ後、切子漆をつける）
8. 錆付け（空研ぎ後、錆漆をつける）
9. 錆研ぎ（砥石で水研ぎをして平滑にする）
10. 下塗、中塗（黒漆で3～4回塗りを入れる）
11. 中塗研ぎ（炭で漆面を平らに研ぐ）
12. 固め（生漆を研ぎ面に十分に吸い込ませる）

○磯草塗工程

1. ヒボ置き（粘度の高い漆で磯草模様をつける）
2. 塗り変えて（弁柄漆を塗る）
3. 塗り変えて（石黄漆を塗る）
4. 塗り込み（黒呂色漆を3～4回塗る）
5. 研出し（砥石、炭で磯草模様を出す）
6. 摺り漆（生漆を3～4回しみ込ませる）
7. 胴擦り（砥の粉と油を混ぜ、布に付けて磨く）
8. 摺り漆（生漆を3～4回しみ込ませる）
9. 磨き（角粉で磨く。2～3回行う）
10. 仕上がり

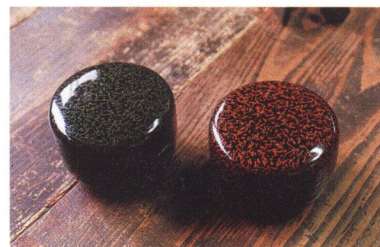
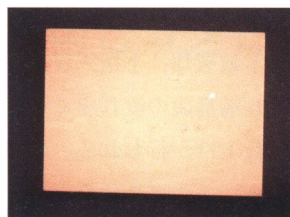


写真4 磯草塗棗

○下地、磯草塗
工程写真



1. 木地



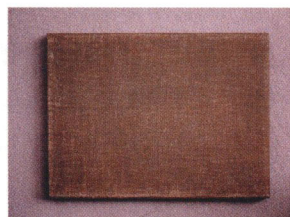
2. 木地固め



3. 布貼り



4. 布目摺り



5. 空研ぎ



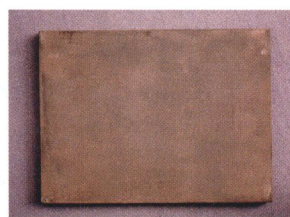
6. 地付け



7. 切子付け



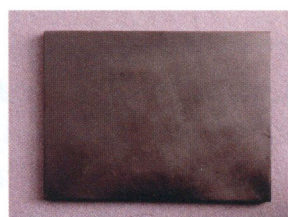
8. 錆付け



9. 錆研ぎ



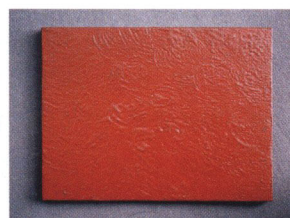
10. 下塗、中塗



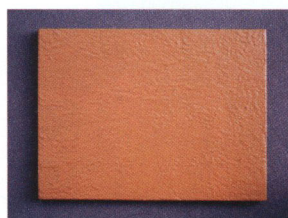
11. 中塗研ぎ



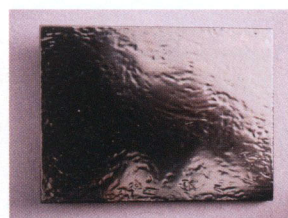
12. ヒボ置き



13. 塗掛け (弁柄)



14. 塗掛け (石黄)



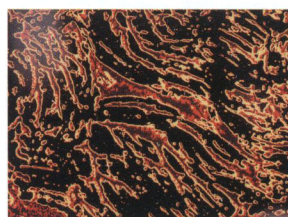
15. 塗込み (黒呂色)



16. 研出し



17. 磨き/仕上がり



18. 磯草塗部分



19. ヒボ置き用道具



20. 漆刷毛

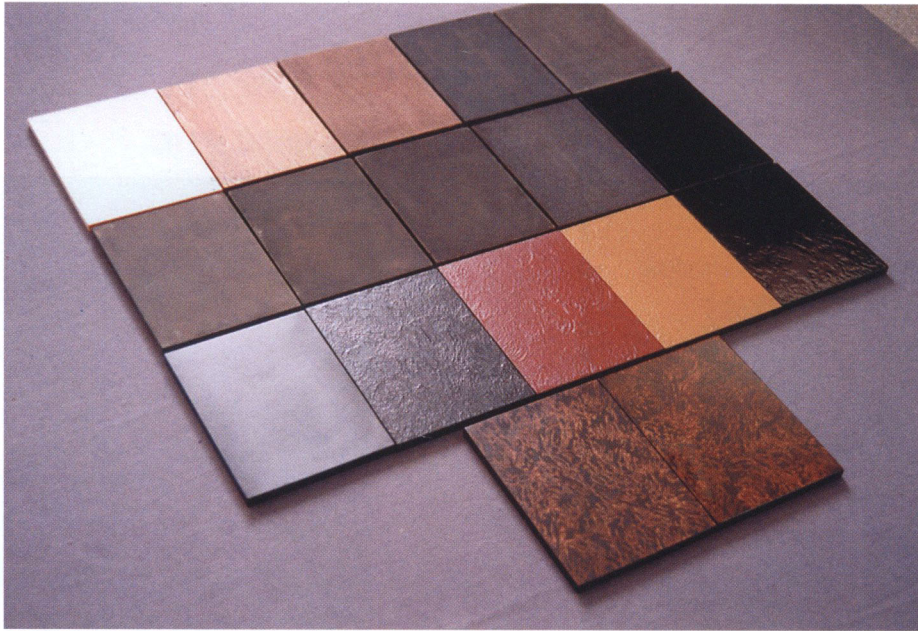


写真7 下地、磯草塗工程全体

4. 磯草塗データベース

漆「変塗」資料として制作しているデータベースに本研究も保存した。一つは漆芸塗装室内のコンピュータに写真として保存し、これらの写真資料は授業でも使用し、学生も自由に見る事ができる。また、本資料だけでなくいままでの変塗資料は変塗の授業に於いて各自が制作する変塗手板の参考として新しいパターンや色彩構成に活用している。

このような資料収集はコンピュータによる視覚的伝達手段として漆芸「変塗」技術を保存し、一般に公開することとしている。工芸コースホームページ（漆芸）の中にこれらの情報を載せてゆく予定である。



写真9 磯草塗道具等

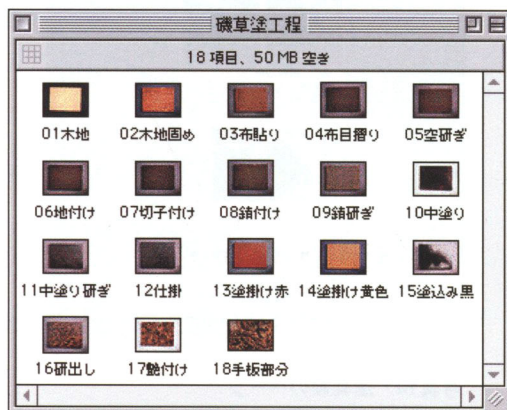


写真8 磯草塗工程

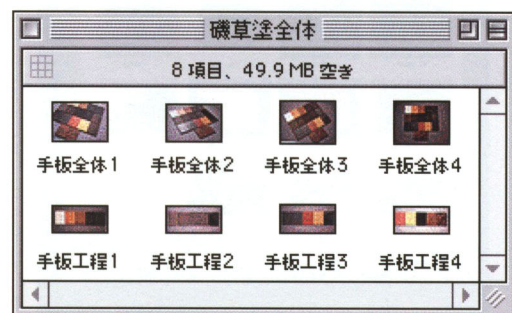


写真10 磯草塗全体

○磯草塗ホームページ案

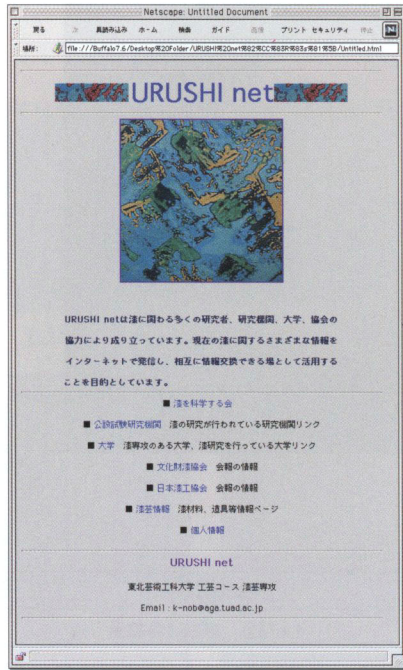


写真11 トップページ



写真12 磯草塗ページ

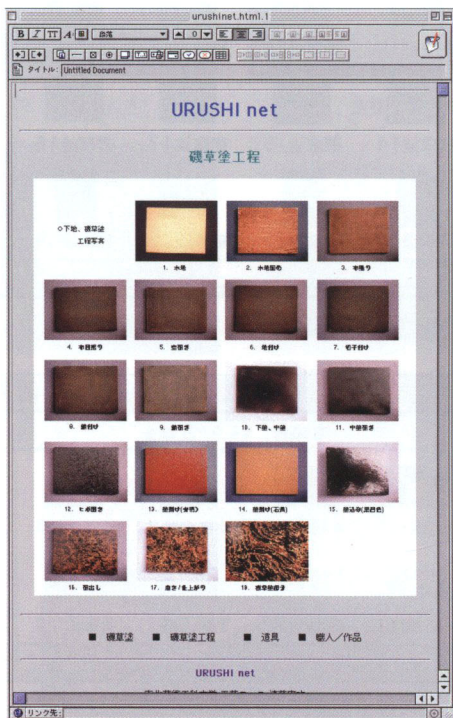


写真13 磯草塗行程のページ

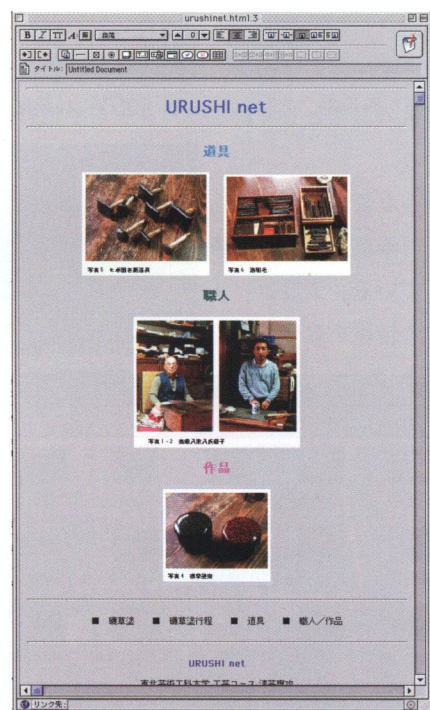


写真14 道具等のページ